

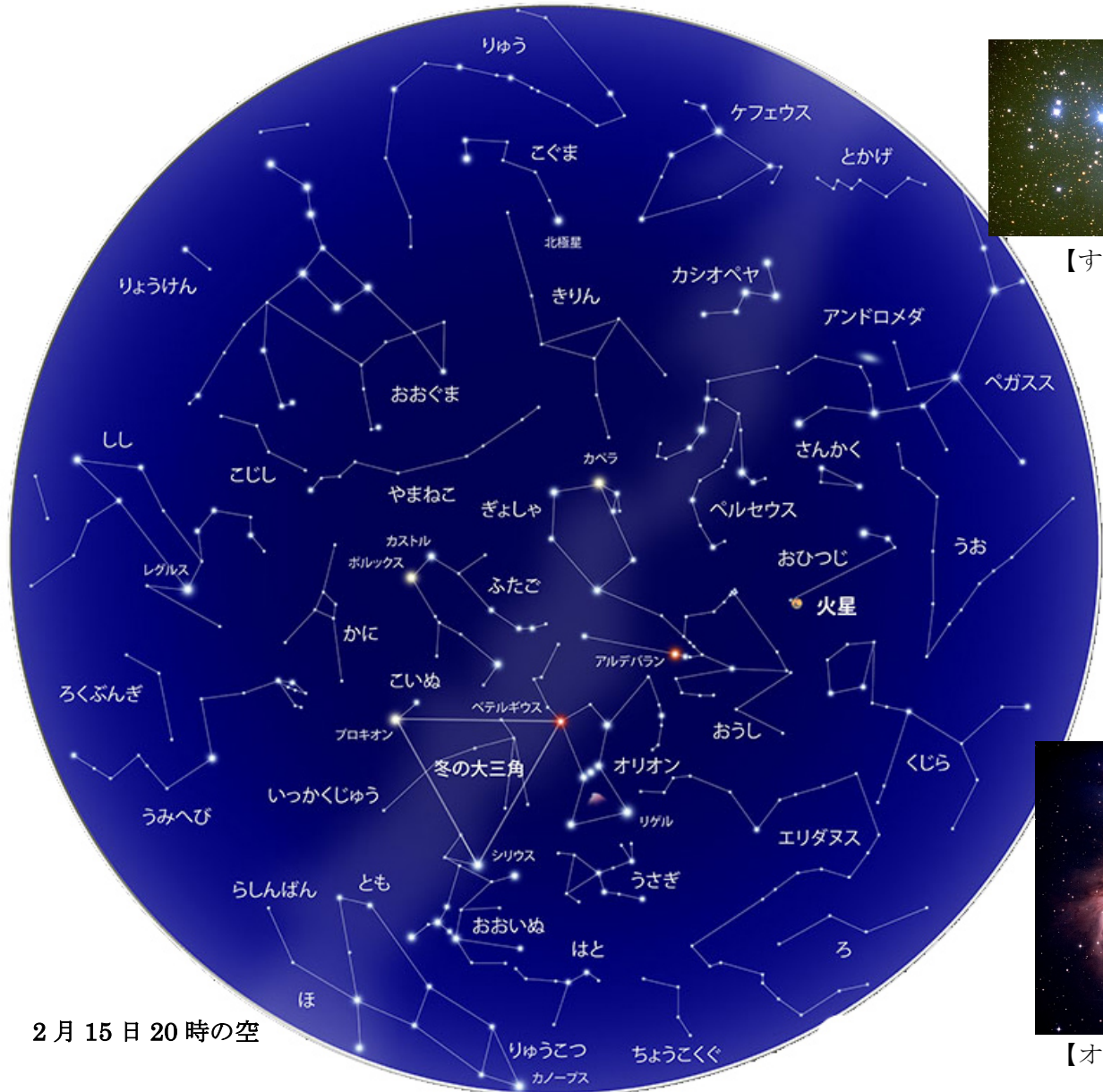
ふゆの星空

寒い日が続く2月の夜空、西の空には秋の星座、南から頭の上にかけては冬の星座、東の空には春の星座という具合に、3つの季節の星座が同居しています。今年は、みんなで集って星空を見る事が難しい状況ですが、寒いのを少しがまんして、たまには夜空を眺めてみませんか。

西の空では、秋の星座があります。もわーとした星の集まりすばるが背中にあるおうし座が傾き、北の方にはペルセウス座やカシオペア座をまだ見ることができます。

南の空を見上げると、オリオン座が美しく輝いています。オリオン座は、北斗七星、カシオペア座などと共によく目に付く星座で、1等星をふたつも持っていることもあって、わかりやすく人気のある星座です。

このオリオン座のベテルギウス、こいぬ座のプロキオン、それと、おおいぬ座のシリウスが形づくっている大きな三角形が、「冬の大三角形」です。



2月15日20時の空



【すばる】



【オリオン星雲】

シリウスは全天でもっとも明るい星なので、すぐに目に留まると思いますが、こいぬ座のプロキオンも1等星なので、夜空の明るいところでも簡単に見つけることができます。

オリオン座の中にある三つ星の付近には、淡く光るオリオン星雲と呼ばれる天体があります、大阪でもたまに肉眼で見る事の出来る星雲です。三つ星の並びにそって、右上にオレンジ色に輝く星、おうし座の1等星アルデバラン。そこからさらに西方向へいくと、星の集まりプレアデス星団が見つかります。和名をすばるといいます。

すばるは、平安時代に清少納言によって書かれた『枕草子』の中で、美しいものの代表として登場するほど古くから日本人に親しまれてきた星団です。ここに望遠鏡や双眼鏡を向けると、大小の星々がいっぱい、美しさにうっとりしてしまいます。街灯りの少ない場所なら、肉眼でも5、6個の星を数えることができます。

頭の上方向を見上げると、少しつぶれた五角形の形をしたぎょしゃ座や、カストルとポルックスの明るい2星が並んでいるふたご座が見えています。

ふたご座のポルックス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバラン、オリオン座のリゲル、そして、冬のダイアモンドを形づくっているシリウスとプロキオンを合わせた六つの星が描く六角形は、「冬のダイヤモンド」や「冬の六角形」などと呼ばれています。

このダイヤモンドからも冬の星座を探し出すことができるので、夜空のガイドとして見つけておく便利です。

夜空の星を見ていると、さまざまな明るさがあることに気が付くでしょう。町明かりがあるところでは、とくに明るい「1等星」しか見えないことも多いですが、同じ「1等星」といっても、明るいものも暗いものもあります。

夜空には21個の1等星があります、星で一番明るいのは、「冬のダイアモンド」の1つ「おおいぬ座」のシリウスです。2番目に明るいのは、南の地平線近くに見える「りゅうこつ座」のカノープスですが、大阪では南の開けている山上や高いビルの上からしか見えない星です。

このほか、6位カペラ、7位リゲル、8位プロキオン、9位ベテルギウスと、冬の1等星は数が多いだけでなく明るい星が輝く賑やかな星空になっています。

東の空に見えている春の星座「しし座」のレグルスは1等星としてはもっとも暗い21位になります。



【文責：天文同好会AOA 村尾】